

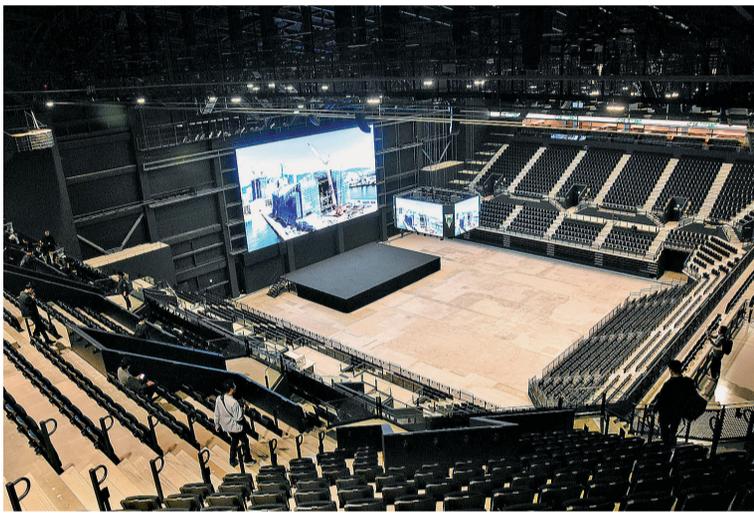
ウォーターフロントの回遊性やにぎわい創出

突堤の地形を生かし、周囲270度を海に囲まれた日本初のアリーナが誕生した。神戸市のウォーターフロント地区に新たなランドマーク「GLION ARENA KOBE(ジーライオン・アリーナ・コウベ)」が4月4日に開業。スポーツやコンサートなどのイベント開催だけでなく、民間企業が最新のデジタル技術を組み合わせ新たな価値を創造する共創プラットフォームの役割も担う。「神戸らしさ」にこだわり各空間をデザインするなど、回遊しながら楽しめる仕掛けが随所に施されている。

ジーライオン・アリーナ・コウベ(南側から)



アリーナスタンド席から



ジーライオン・アリーナ・コウベ開業

神戸市が進める新港突堤エリア再開発(中央区新港町)の一環として、NTT都市開発とNTTドコモ、スマートバリューの3社でつくるコンソーシアムが第二突堤に民営の大規模アリーナを建設した。建物はS・SRC造7階建て延べ約3万2000平方メートル(神戸市中央区、洪谷順社長)が手掛ける。親林組、CM(コンストラクシ



オンマネジメント)業務を山下PMCが担当した。関西最大級となる観客数約1万人を収容し、男子プロバスケットボールチーム「神戸ストークス」の本拠地となる。プロスポーツやeスポーツ大会、国内外アーティストのコンサートなど多様なイベントの舞台になるほか、MICE(国際的なイベント)会場にも対応する。

関西最大級1万人収容 内装空間に「神戸らしさ」追求

施設内は来訪客に非日常体験を楽しんでもらえるよう、さまざまな仕掛けが充実している。4階に200席のラウンジや個室などを備える「VIPエリア」を設けたほか、地元神戸牛や明石名物「たこめし」など厳選した飲食テナントの誘致にこだわった。商業施設などの空間設計を手掛けるスペース(東京都中央区、佐々木靖浩社長)が、VIPエリアの施工を担当したほか、観客向け飲食コーナーや物販店舗、選手ロッカールームなどの空間演出に参画した。同社の大田寛章氏(大阪第3部事業部長)は「神戸の歴史が紡いできた、異文化

を創出する。施設内は来訪客に非日常体験を楽しんでもらえるよう、さまざまな仕掛けが充実している。4階に200席のラウンジや個室などを備える「VIPエリア」を設けたほか、地元神戸牛や明石名物「たこめし」など厳選した飲食テナントの誘致にこだわった。商業施設などの空間設計を手掛けるスペース(東京都中央区、佐々木靖浩社長)が、VIPエリアの施工を担当したほか、観客向け飲食コーナーや物販店舗、選手ロッカールームなどの空間演出に参画した。同社の大田寛章氏(大阪第3部事業部長)は「神戸の歴史が紡いできた、異文化

間企業の共創プラットフォームを目指す。第二突堤エリア全体を「TOTTEI」と名付け、アリーナ南側に同社が整備した緑地「TOTTEI PARK」とシナジー(相乗効果)を発揮し、ウォータフロントの回遊性やにぎわいを創出する。



スポテリアバー



緑の丘(ワン・ブライト・コウベ提供)

が混在する「神戸らしさ」を追求したデザインを随所にちりばめた」と話す。ロッカールームは選手らを3月に地元小学生らを招き、それぞれの絵を描くワークショップを開催。アートパネルの展示も行った。

施設内は来訪客に非日常体験を楽しんでもらえるよう、さまざまな仕掛けが充実している。4階に200席のラウンジや個室などを備える「VIPエリア」を設けたほか、地元神戸牛や明石名物「たこめし」など厳選した飲食テナントの誘致にこだわった。商業施設などの空間設計を手掛けるスペース(東京都中央区、佐々木靖浩社長)が、VIPエリアの施工を担当したほか、観客向け飲食コーナーや物販店舗、選手ロッカールームなどの空間演出に参画した。同社の大田寛章氏(大阪第3部事業部長)は「神戸の歴史が紡いできた、異文化



共創拠点「BUOY」

リーズナブルな価格でカクテルなどが楽しめる5階スタンド席のスポテリアバーは、神戸の海の水面(みなも)に太陽が反射する情景をモチーフに、曲線をあしらったアルミ板を採用した。一色慎也氏(営業7部部長)は「観客にバーの価格帯以上の特別感を味わってもらえようデザインにこだわった」と振り返る。

2階エントランス前に設けた共創拠点となるカフェ施設「BUOY(ブイ)」は船をイメージし、神戸の港町や背景にそびえる六甲山と調和するようデザインした。同社は3月に地元小学生らを招き、それぞれの絵を描くワークショップを開催。アートパネルの展示も行った。

アリーナ南隣の「TOTTEI PARK」が4月25日に竣工した。ワン・ブライト・コウベが国内初となる港湾環境整備計画制度(みなと緑地PPP)を活用し、にぎわい緑地として広場中央に建築物「緑の丘」(S造2階建て延べ約900平方メートル)を整備。緑化した屋根は屋外イベント時に観覧席として活用する。建物内は商業空間の機能を備え、バーベキュー施設や飲食店舗が入居する。設計を神戸の建築家・畑友洋氏、施工を柴田工務店(兵庫県洲本市)が担当した。6月20日のグラウンドオープンを予定している。

